令和6年度 第2回 八戸市図書館協議会 会議録

【概要】

日 時	令和7年2月10日（金） 10時00分
場 所	八戸市立図書館 2階集会室
出席委員	<p>【出席】</p> <p>戸田山 みどり 委員 小笠原 光 佑 委員 堤 司 委員 佐々木 宏 恵 委員 高 橋 智 子 委員 松 本 亜矢子 委員 森 佳 正 委員 八 田 雄 太 委員</p> <p style="text-align: right;">計8名</p> <p>【欠席】</p> <p>鈴 木 淳 世 委員 早 狩 ゆかり 委員</p> <p style="text-align: right;">計2名</p>
事務局	<p>図書館：磯嶋館長兼業務グループリーダー、 高村副館長兼管理グループリーダー、 安ヶ平歴史資料グループリーダー、 滝尻主査兼学芸員、 下田主幹、新山主事、金屋主事、今野主事兼司書</p>
案 件	<p>議事</p> <p>・令和7年度八戸市図書館事業計画（案）について</p> <p>報告</p> <p>(1)八戸市図書館における定期的な休館日の導入について</p> <p>(2)分館の次期指定管理者について</p> <p>(3)先進地視察の報告について</p>
結果概要	<p>上記案件について事務局説明後、出席委員より意見等をいただいた。 （以下、詳細）</p>

○事務局

本日は、お忙しい中、ご出席くださいますと誠にありがとうございます。ただいまより、令和6年度第2回八戸市図書館協議会を開会いたします。

本日の司会進行を務めます、八戸市立図書館の高村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日傍聴される方へお知らせいたします。当協議会におきましては、傍聴人は会議での発言はできませんので、ご遠慮くださいますようお願いいたします。また、写真撮影、録音等の行為、その他会議の進行に支障をきたすような行為、言動は慎んでいただくようお願いいたします。なお、報道関係の方の写真撮影につきましては、冒頭5分間のみの撮影とさせていただきます。これらが守られなかった際には、退場していただく場合がございますので、ご協力をお願いいたします。

ここで、事務局よりご報告申し上げます。

本日、委員10名中8名と委員の過半数が出席しておりますので、規定により、協議会が成立することをご報告申し上げます。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。資料は、事前に郵送しております、

資料1「令和6年度第1回八戸市図書館協議会での主な意見・質問内容と対応状況」

資料2「令和6年度事業計画からの変更点」

資料3「令和7年度八戸市図書館事業計画（案）」

資料4「八戸市立図書館における定期的な休館日の導入について」

さらに本日、お配りしております次第、名簿、席図、

資料4について2ページに一部誤りがありましたので、その差替分、

先進地視察の報告について関係する資料として、

資料5-1「『市民の居場所』となる図書館について」

資料5-2「調べる学習の推進について」

資料5-3「ICタグの導入に向けて」

資料5-2に関係した資料として「災害と防災を調べる」

以上となります。不足等ございましたらお知らせください。よろしいでしょうか。

それでは、議事に移りたいと思います。

ここからは、戸田山会長に進行をお願いいたします。

○会長

それでは議事に移らせていただきます。

「令和7年度八戸市図書館事業計画（案）について」事務局より説明をお願いいたします。

○事務局

～ 資料1～3に基づき説明 ～

○会長

ありがとうございました。ただいまのご説明について、ご意見ご質問等がございましたら、挙手をお願いします。

○委員

資料2の37番「高齢者、障がい者用図書の充実【拡充】」の中に、収集した資料を展示し利用促進を図るといふ一文を入れたところで、口頭説明のあった「りんごの棚」について、委員の方にもう少し説明をいただければと思います。「りんごの棚」というのはどういったもので、収集した資料を展示し利用促進を図るといふことに、どのように結び付くのかの説明をお願いします。

○事務局

「りんごの棚」というのは日本で始まったものではなく、スウェーデンで始まったもので、読むことに特別な配慮を要する子ども達を置き去りにしないように、そういう子ども向けの図書や、読書のときの助けになる、リーディングトラッカーや拡大鏡も含めて、コーナーを作るというもので、日本でも設置している図書館が増えています。現在出版されているものでは子ども向けの大活字本、今までは高齢者向けの大活字本が多かったのですが、今は青い鳥文庫などでも文字の大きな本が出ています。当館でも購入していますが、児童書の棚に排架している状況です。あとは「LLブック」という、文字を読むことが難しい子どもに、イラストやポイントがわかりやすくなるような写真を入れた本が出ています。これは児童用も一般用もどちらも出版されていますが、当館では一般は一般の棚に、児童は児童の棚にそれぞれ排架しており、LLブックなのかどうか、障がい者に配慮したものなのかかわからない配置になっています。これらをひとつの場所に集めて展示し、配慮を必要とする人が利用できるように、さらに配慮を必要としている人がいるということを皆さんに知ってもらうために、「りんごの棚コーナー」を作って、そういう本や資料を集めて展示するというものになります。

当館の場合は、常設のコーナーにするか、企画展示のような形にするかも含めて検討します。スペース的に常設コーナーを設けるのは難しいので、企画展示から始められないかと思っています。

○会長

ありがとうございます。比較的最近ですが、公共図書館や学校図書館でも、そういった配慮が必要な方でもアクセスしやすいようにしている動きがだいぶ浸透してきているということですので、資料の利用促進に繋がるような形で広報すれば良いと思います。

○委員

一昨日の美術館で、目が不自由な広瀬浩二郎先生という国立民族学博物館教授の実体験をもとにした、ぼこぼこした手触りの絵本にふれるイベントをやっていました。マイノリティの方への理解というのは、啓発あってのことだと思います。こういう方々と共生する、一緒

に住む、世界的にもリーズナブル・アコモデーション〔合理的調整・合理的配慮〕という名のもとに多様性を重んじる動きをしている中ですので、八戸市でも民間団体の主催ではあったのですが、美術館でイベントを行い、展示本などを展示していました。図書館という立場でも、このような啓発活動ができるのではないかと思いますので、ぜひ来年度以降取り組んでいただければと期待しております。

○事務局

補足ですが、音の出る絵本や音の出る図書というのもありますが、当館では残念ながら音の出るものは揃えていないので、展示できないものもあると考えております。

○委員

耳で聞くオーディオブックに関しては、図書情報センターという専門館があるのでそこだと思いますが、合理的配慮、合理的調整の時代においては、本館の中でゾーニングしてでもできる事例はあるかもしれないですし、もしくはヘッドホンをするなどして音の漏れを防ぐなども考えられます。図書館はまだ静かな場所、クワイエット・プレイスとされているところが非常に強いのですが、だんだんその辺りが街の賑わいの中心点となるように政策も変わっている自治体や施設もあります。静か問題と音の出る本問題はぶつかる話題ですが、そのトピックに対してどのように解決している自治体や図書館があるかということ、先進事例の中で調査、視察していただければと思っております。

○事務局

朗読CDは当館でも所蔵しており、利用もありますが、絵本で開くと音がする、押すと音がするといったものは、エリック・カールの「だんまりこおろぎ」以外は所蔵していません。

○委員

事例を紹介しますと、弘前市立弘前図書館は、「おはなしコーナー」という名でお子様のゾーンを、りんごの町なのでりんごの形をした扉があって、八戸市立図書館のお話会用のコーナーよりも少し広かったと思います。間仕切りをし、そのスペース内はお話会だとか声を出してもいいというようなスペースを作った上で、ゾーニングを図っていました。県内でも事例があるので、県立図書館との連携や、西北五や東青などの他都市の事例を共有することで、同様に取り組むこともできると思いますので、検討いただければと思います。

○会長

他にご質問などはございませんか。

学校現場の方からはいかがでしょうか。

「りんごの棚」のような障がいのある方に対する支援に関しては、小学校の国語の教科書でも点字や手話が紹介されるなど、一般に知られるようになってきています。実際に、教科書の点字は触ってわかるような印刷になっています。手近なところでは、そのような教科書

の展示も含めて、一般への広報ができるようになるとういと思います。

○委員

弘前市立弘前図書館は、教育センターと連携していました。教育センターは主に先生方とALTや理科のコミュニケーターのような補助をする方が常駐しているセンターとして機能しているのですが、その中で、今年度採用される教科書と採用されなかった教科書をすべて閲覧できるようになっています。八戸市でも、総合教育センターでは閲覧できますが、総合教育センターには一般の方が入る余地はなく、その機会も知られていない状況です。弘前図書館では、「教科書見本」コーナーを作っていました。市立の図書館なので中学校までですが、小学1年から中学校3年までの全教科の教科書について採用されたものには黄色いテープを貼って識別し排架していました。ただし、教科書なので閲覧のみで閲覧場所も決めるという制限をかけていましたが、このコーナーだけは教育センターに棚貸ししているとのことでした。ですので、八戸市教育委員会内での調整になると思いますが、総合教育センターの職員が毎年メンテナンスという形で新年度の教科書を排架することによって、この教科書は採用されてこの教科書は採用されないと、親御さんが見る機会を作ることができます。弘前市に問い合わせをするなど、もう少し詳しく図書館と教育センターの話が聞ければ、八戸市でも実現できるのかなと思っております。

○委員

教科書は、八戸市の総合教育センターに全てあります。

○会長

それは、採択されているものだけではなく、全てあるということでしょうか。

○委員

全部あります。それを市の図書館に持ってこられるかどうかは、教科書センターの性質や、教科書事務に関する規定があるので、それが弘前市のようにいくかどうかはわかりません。できるかどうかはわからないのですが、総合教育センターと市教育委員会で相談することは可能だと思います。教科書は4年に一度採択されるもので、小学校は今年度、中学校は来年度の4月から新しいものになります。そうすると4年間は変わらないで、そのまま置くことはできるかと思いますが、弘前市のように可能かどうかはわかりません。相談してみるのには良いのではないかと思います。

○会長

市民であれば、望めば中を見せていただくことはできますか。

○委員

総合教育センターに行けば、見ることができます。

○会長

ひとつの問題は、そのこと自体があまり知られていないということ。もうひとつの問題は、私から見ると総合教育センターが少し不便な場所にあるので、私は研究者として過去の教科書を当たらなければいけないこともあったので、そこに行けば過去のものも保存してあって、さかのぼって見比べることや各社のものを比較できるとか、いつからいつまで採択されていていつから変わったのかをたどれるのはわかっているのですが、なかなか一般の方、保護者の方、先生方でも足を運ばないと見られないとなると、どのくらい利用されているのかと思うところがあります。そういう意味では、比較的皆さんが来館しやすい図書館にニーズの高いものを貸棚の形で出張、展示していただけると、利用者の方も利用しやすくなると思います。

○委員

先程の音の出る絵本のゾーニングはすごくいい取組だと思いますし、お試しすることは良いと思いますが、一方で、音が出るのが刺激になる子もいるのでその辺が難しいと思います。音が出る・出ないで、聴覚障がいの方や目に障がいのある方にはとてもいいと思うのですが、それで何かのスイッチが入ってしまう子もいるので、いろいろなことをクリアして実現できればいいと思っています。

先程の教科書の件に関しては、教科書が変わる時に保護者の方へ、新しい教科書の展示会についての案内は出しています。ただ、そういう意識があるかどうかはまた、別な問題です。総合教育センターにあるということを何かの媒体などで出してもいいと思いますし、いろいろなやり方はあると思います。

○事務局

図書館も現行の教科書、採択されたものは置いていますが、採択されなかったものを置くという意識はありませんでした。

○会長

それほど受験対策が過熱しているわけではないので、そこまで関心が高くはないかもしれませんが、高校受験の場合、学校で実際に使っている教科書以外もチェックしておきたいということもあるので、もしかすると情報を欲している方はいるかもしれません。

他にご質問、ご意見等はございませんか。

○副会長

資料2の29番「読み聞かせボランティアの育成」についての説明で、開催頻度の変更とは、増やす方向なのか、定期的が難しいから減らすものなのか、具体的に何かありますか。

○事務局

今まで長年にわたって、図書館では月に1回「子どもの本研究会」という絵本についての勉強会を開催してきました。内容は、絵本の読み聞かせの基礎的なことを毎回行うというよりは、それもやりながら絵本の紹介が多くなっていました。それを長年やってきましたが、平日の日中という開催日時で参加者が固定化し、毎年広報などで募集してもなかなか参加が増えない状況でした。新しい方にも参加してもらいたいのと、絵本の勉強をするのか読み聞かせの仕方なのかをはっきりさせて、参加する方がどういったことをやりたいのか明確にして参加していただけるよう、毎月やっていたものを年に2回、読み聞かせの基本と読み聞かせに向けている絵本の紹介ということで今年度実施します。今年は図書館協議会の高橋委員に講師をしていただき、読み聞かせ初心者向けとテーマを決めて開催しました。土日でなければ参加できないという声も多かったので、日曜日に開催しました。長年行ってきたものを一度見直しして、今年度は基礎ですが、来年は基礎だけでなく違った内容のものもできないかというように、毎年検討して開催回数もその都度考えて開催していくということで、回数は減りますが、新しい参加者が増えていくのではないかと期待しております。

○副会長

ありがとうございます。どの分野でも、ボランティアの育成は非常に大変だと思います。そういった部分でリニューアルされるということなので、効果を期待しながら、質の向上という部分で期待しております。

○委員

今の件について、先週の2月2日と2月16日の2回の開催で引き受けた講座でしたが、皆さん熱心で定員も埋まって、集まってくださった方達が、勉強しようという意欲があり、基本的なことから何回か経験されている方の疑問点など、私が知っている限りはお知らせできるかなあと思い、一緒に楽しく学んでいます。

○会長

今年度から少しずつということですね。

○委員

資料1の6番の「レファレンスの案内」について、12月から実施済みということですが、実施してみたの反響や活用状況があればお知らせいただきたいかったです。

○事務局

特に何かというのは、聞いていません。それを見てレファレンスをしているのか、そうではないのかわからないところがあります。

○事務局

統計的な数は、増えていないようです。

○事務局

聞かれたことはレファレンス件数としてチェックしていて、カウンターに入ったときに漏らさないように気を付けていますが、どこまで効果が表れているかはわからない状況です。

○委員

資料1の7番。ブックリストができれば、読みたくなるようなものをXなどで発信してもらいたい。いつも図書館のXを拝見しています。いろいろな情報をありがとうございます。この読みたくなるようなものを発信する、こういう本がありますよというおすすりはとてもいいと思いますが、逆に、こういう本を紹介しているのならなぜこの本を紹介しないのかという困った意見が来る恐れはないでしょうか。そういう小説を読んだことがあるのですが、とある図書館で利用者が本を紹介したいと言い出して、図書館のHPで紹介するようになったらどんどんエスカレートし、自分の理想を押し付けるようなもの、それを公共のHPやツイッターで発信するようになってしまい、それはよくないのではという内容のものでした。この本を八戸市立図書館としておすすめしますというのは、非常にセンシティブな問題に繋がる可能性もあります。大げさかもしれませんが、この本を紹介するのであれば、私の著書であるこの本をどうして紹介しないのかという苦情が来たときに、困るかなという心配はあります。杞憂かもしれませんが、そういうことも考えて、特定の本を紹介するのは難しい面もあるのではという私の懸念です。

こういう種類の本はこの棚にありますとかそういうのはいいと思いますが、法律関係のものはこの棚に揃えていて、その中でこれを紹介しますとか、絵本についてもこれをすすめますというのは、特定の著者について臆慮ではないですけど、何かあるのではと思われるのは心外である。公平性が必要な図書館としては、問題に発展する可能性があるかもしれないということも考えていることをお伝えしたいと思いました。

○事務局

Xでは今回のおすすめとか、移動図書館の中からおすすめという形でやっています。それぞれその日の担当の考えで、時事や季節にあったもの、自分の趣味や得意な分野から1冊というような形でやっておりますが、そこまで考えたことはありませんでした。

また、こんなにたくさんありますというのはいろいろやっていて、その中からこういったものもあるというのをお知らせするというので、ピンポイントで言ったほうが、それに食いつく方がいらっやいます。以前に何を読んでいいのかわからないという話もあったので、ターゲットを絞る形で発信をしています。

○事務局

今お話しいただいたようなリスクはあると私も思っています。市の図書館ということと、公式Xということで公式と謳っていますから、その点はあると思いつつ、月、年間で担当を決めて、ペンネームを名乗ることまではしていないのですが、図書館員の立場とはいえそれ

ぞれの好み、感覚というところで個性を出しても良いのではと思います。その中で、それぞれのキャラクターというか、特色が出た味をお届けしているので、そこを評価いただいているのはあると思いつつ、その逆もあると思いますので、注意しながら表現等も含めて発信していきたいと思います。

○会長

選書、広報という意味では書店も一緒だと思います。ブックセンターは公営の書店ですので、そういった声もあるのではと思いますが、何かご見解や方針などありますでしょうか。

○委員

今の委員が指摘されたところは、とても先を見ている。この先、Xの人气が高まったら出てくるリスクということで、今のうちに想定しておいたほうが良いという大事な意見ですので、もしよければ読んだ小説名を教えて貰えればと思います。小説家の想像力と先を読む力で小説というフィクションを使って提示した話だと思うので、まさに委員がそれを感じ取って今このように発言していただいたと思うので、起きたときに生じることよりも、小説を通じて想定しておけば対応を取れる、ヒヤリハットができるということがあるので、これはとても大事だと思います。

もうひとつ、職員の個性を出すということは大事だと思います。「みんなの図書館」という、図書館専門のお仕事をする方向けの専門誌があるのですが、2025年1月号で取り上げられていたのは、図書館流通センターの物流上、最適化された方法で出版社から全国の図書館にいくと、どこにいても金太郎飴になってしまいます。それは、間口を広げて話題本にすぐアクセスするというのはいいのですが、図書館の個性が没個性になってしまい、かつ選書能力が落ちます。今までは、日曜日のデーリー東北でおすすめの本を紹介していますが、書評が書けるわけではないのでリストでしかない。だから、あの本を選んでも、だから行くという方は、よほど本好きな人に限られているのを、Xで発信することで、一点一点の紹介が出来ている、そこは個性を出せる場所です。どの本を我々が選書したか、配本で入ってきたかは置いておいても、少なくともこの本をおすすめするよと意思表示することは、公共図書館の中での没個性を脱する方法としてはとても有効だと思います。出版社によりいろいろと制約があり、その中でクリアしないといけないというのがSNSの難しいところですが、大いに評価したいところだと思います。私も選書の立場でお客様から言われるのは、大きすぎる図書館は選ばれないという言葉を聞きます。全部が揃っているのはとてもいいことのように感じますが、疲れてしまいます。そこで、おすすめというかご案内するというワンクッションがあることで、きっかけを作れるのではないかという意識で私たちも取り組んでいます。

○会長

別の観点からですが、公共図書館は、基本的に市民のための資料収集が重要な役割になっています。いろいろな意見があるような種類の書籍であっても排除することは出来ないとい

うか、それぞれの立場の資料を均等に収集する義務があると思っています。その中で、なぜこんな本を図書館が予算をかけて買っているのかという意見はいろいろな図書館が受けてきていると思いますが、図書館の役割というのが、公立の図書館ですからまずは不偏不党で、自分とは違う反対意見の立場の本もそこに行けば読むことができる。自分では買う気はしませんが、図書館に行けばあることがメリットだと思っています。図書館によっては、HPの最初のところの我が館についてみたいなところに、選書基準や除籍基準を明示しているところもあります。その選書基準の中には、本館で所蔵している書籍はあくまでも公平な立場で選書しているのであって、決して図書館員の個人的な思想信条を反映しているものではないことを明記しているところもあります。どういった本を収集するかを広く確認していただき、その上で、図書館としては読んでいただきたい本、知っていただきたい本というのはあると思います。公平に入れているけれども、その中でこれはぜひ読んでほしいというところに、図書館の個性、図書館員の見解、鑑識眼、鑑定眼が反映されるのが重要なので、こういう図書館員がこういう方向けにこういう観点で選んだといういきさつがあって、この本はこういう人が求めていると想定して選ばれていることが明確であれば、なぜこの本が入っているのか、入っていないのかというのは個別の見解、問題になってくるかと思っています。

○委員

おっしゃるとおりだと思います。皆さんおっしゃるとおり、選書した方の個性ということ。私も心配しすぎかと思いますが、時々そういうことを自分の仕事も含めて考えなければいけないことがあるので、そういう意見が来ることもあるので傷つかないでほしい、私自身も傷つきたくないという思いで申し上げました。

○会長

利用者の方のおすすめというコーナーがあるといいのでしょうか。

○委員

それが良くなかったと思います。利用者が図書館のHPをジャックしている状態なので。

○会長

HPは良くないですね。もしそれをするのなら、紙のものですね。小さな掲示板のような形で、情報交換の場としてどうぞとすると、そういう気持ちをお持ちの方へ、表出の機会を提供することになるかもしれません。炎上するかもしれませんが、炎上しても紙ですから。そういうことはいえるかと思っています。なかなかいろいろと難しいところです。

○事務局

実はデーリーの新刊案内も大変人気があって、切り取って貼っていますが、それを見て予約の方が結構います。新着リストと、それを見て予約する方が多くて、出ていないとまだ出ていないとなります。1冊の特定本を公共の図書館でおすすめするというのも、私たち

図書館としては、たくさんある中の今日はこの1冊と紹介することで、今まで来たことのない方にこんな本があるんだと、1人でも2人でも図書館に興味を持ってもらうきっかけになればという気持ちがあります。もちろん普段来ている方も、こんなものが実はあったんだということ、それがたくさんあるものの中からひとつ取り出して見せるということで、より近くに、これをターゲットに行ってみようかと思っていただければ、職員もそういう方が1人でも2人でもいたら、やりがいがあるなと思ってやっています。今のところ、委員からお話しいただいたような批判はありませんが、そこも念頭に置きながら、やってみたいと思っています。

○委員

Xの話で、素晴らしいなと思ったのですが、実際にXを見て本を借りている人は多いですか。

○事務局

借りに来ましたという声は、直接はないです。

○委員

良い取組だと思いますので、そこをしっかりと検証できるようにデータ化していくと、本当に意味があるのではと思います。せっかく皆さんが知恵を絞っているということですので、取組自体はいいと思うのですが、そこにしっかりと検証を加えるとより良いものになるのではと思いました。私もなかなかXを見て本を借りるとか、公式があったのを知らなかったの、そういうところを周知していくのもポイントになっていくと思います。

○会長

ありがとうございます。私も実をいうと、本の紹介について、あるなどはわかっているけどもチェックしていませんでした。

○事務局

その本が借りられたかというのも検証が必要ですし、本の紹介以外も含めてどういう情報が見られたかといったことや、「いいね」が付いたかということを経験的に分析したいという話はしつつも、手が回っていませんでした。全体的に言うと、歴史資料グループが発信している古い写真などは、「いいね」が伸びたりするので、どういう発信の仕方をしたらいいかなど今後研究していきたいと思っています。

○委員

私は、一生懸命「いいね」を押しています。一番助かるのは、移動図書館の「今日はここです」、「今週はここです」のお知らせです。すごく助かっています。

○会長

ありがとうございます。私の方が付いていけないのですが、新しいメディアで情報発信していく必要性はとても高いと思って聞いております。

他にご質問やご意見等ございませんか。もしないようでしたら、次に進みたいと思います。

それでは、次第3番の報告(1)八戸市図書館における定期的な休館日の導入についてご説明願います。

○事務局

～ 資料4に基づき説明 ～

○会長

ただいまのご説明について、ご意見ご質問等ございましたら挙手をお願いします。

資料を見ますと、ほとんどの自治体、中核市が休館日を設けています。

○事務局

市内の公共施設を見ますと、数としては月曜日が多いのですが、火曜日定休日の施設が資料別紙3になりますが、ブックセンターをはじめ美術館、はっちということで、図書館も中心街の端と考えますと、中心街の公共施設のお休みというイメージにもなります。

○会長

遠方から視察のためにいらっしゃる方が、ここは空いていてここは閉まっていたということがないように、一度に全部見てもらえるように、同じ日に休みになっていたほうが便利かもしれません。

○委員

火曜日で大変いいと思います。理由は、他の施設が月曜日休みで、月曜日が祝日の場合は翌日が休みとなっているのなら、初めから火曜日にしてしまったほうがいいと思います。

グラフで月曜日の入館者数が少ないのは、おそらく図書館が最終平日お休みというのを知らない、多分図書館も博物館と同じ月曜日が休みだろうという人が多いのではないかと思います。それを考えると火曜日の休館日はわかりやすく親切だと思うので、このまま押し進めていただいて、8年度以降に本格実施、7年度は試行という形でいいと思います。

○会長

他の自治体も、市内の館の休館日をずらしているところがあるようですから、例えば、こちらからこちらへの図書の移動ということに問題が生じないのであれば。

○事務局

問題が生じないように、来年度は移動図書館の運行、分館との配送、学校配本や施設配本の曜日などを見直しました。ただし、祝日は移動図書館車を動かさないため、祝日がそこに

重なるとずれる場合がありますが、休館日には誰も出勤していない施設もありますので、祝日がなければ週に3回配送できるような体制を整えて来年度実施する予定です。

○会長

それは、資料1の9番「その他の物流」のところですか。

○事務局

8年度に見直しは必要かもしれないですが、それも含めて試行させていただきたいと思います。

○委員

明日祝日のような場合、明日は開館して翌日が休み。そこは変わらないということでしょうか。

○事務局

そうです。

○委員

火曜日休みの事例を参考までですが、そのあたりは臨時休館という対応が最も望ましく、年間ないし月間の中で公休日をうまく調整することができます。あとブックセンターの場合は中心街の施設なので、えんぶりや三社大祭期間は開館しています。その代わり別の日を臨時休館とし月間調整しています。月曜日が休館の施設は、ハッピーマンデー法以前からずっと月曜日をそのまま踏襲しているのではないかと思います。国の法律上休日を促進したいという流れの上で、ハッピーマンデー法以降は月曜日3連休を作り、月曜日までは自由に来てもらいたい、そして受け入れたい側は開いておくのが望ましいというのがあります。現にブックセンターでは3連休最終日の来館数は落ちます。翌日が平日だからです。3連休の場合は月曜日、通常の場合は日曜日、特に5時以降は足が早いです。中心街のお店を見ても5時くらいになるとシャッターを閉めています。

○会長

図書館は、日曜日など休日開館のときは5時閉館になっていますね。

○事務局

土日祝日は、5時までです。

○委員

もう一つ中核市で、青森市民図書館ではできているのではという点について、もあると思いますが、青森市民図書館は、場所が駅前であるということです。アウガというデパートみ

たいたったところを使っている立地を考えると、そうせざるを得ない事情というのがあると思います。これが、もしもの話で中心街の某デパートに移転するようなことになれば、もう少し窓口業務だけでも別途開くことは想定しておかないといけないかもしれない。

でも職員の休みという部分と、休みの日に職員みんなで運営について意識合わせができるような時間を設けたいのは、どうしてもカウンター業務と並置すると物理的に難しい問題が出てしまう。そう考えると、休館しているけど職員は出勤しているという日をひと月に1回くらい作るためにも、毎週の開催は極めて望ましいのではないかと思います。

○会長

市民の皆様にもご理解いただけると思います。

○委員

私は3ページの本館と分館の休みを別にするのは、とても良いアイデアだと思います。利用者としては大変ありがたいところです。

○会長

他にご意見ご質問等ないようですので、その次の(2)の分館の次期指定管理者について事務局よりご説明をお願いします。

○事務局

南郷図書館及び図書情報センターは、指定管理で運営されていますが、現在の指定管理が令和7年3月31日で終了となります。令和7年4月1日から5年間、新たに指定管理が始まります。昨年選定し、図書館流通センターに決定しましたのでお知らせいたします。

これまでと継続して、南郷図書館と図書情報センターは、図書館流通センターによる指定管理となります。

○会長

ただいまの説明について、ご意見・ご質問等はございませんか。

特になければ次に進みます。

次第3(3)先進地視察の報告について、事務局よりご説明願います。

○事務局

～資料5-1について説明～

○事務局

～資料5-2について説明～

○会長

資料にあるパスファインダーについて、少し解説していただけますか。テーマごとにまとめたものを作っていると思うのですが、これは袖ヶ浦市立図書館が作成したものでしょうか。

○事務局

袖ヶ浦市立図書館で作成しています。皆様にお配りしたものは、災害と防災に関するテーマのものとエコをテーマにしたものですが、各テーマに応じて小中学生が調べやすいように、図書館の利用端末の使い方や、テーマに応じた辞書や辞典についてどういったものがあるか、あとはインターネットでの調べ方について、こちらの紙にまとめて、自由研究や調べる学習の参考のために配布しているとのことでした。

○会長

パスファインダーの重要な点の一つが、インターネットで調べるといろいろな図書が出てくるかと思えますけれども、本館にはこの本がありますよと各館ごとの利用者向けに実際に利用できるものが具体的に手にとることができる、何を見たらその本にアクセスできるかといったことが、それぞれの館ごとの情報としてまとまっているということだと思います。

これは、紙で置いてあるものですか。それともサイトなどで見ることもできるものなのでしょうか。

○事務局

袖ヶ浦市の場合は、紙で置いてあるほか、HPの調べ案内のページにPDFデータで載っておりまして、館内でもインターネットでもご覧いただけるような状況でした。

○会長

実際にお子さんが利用するときには、インターネットだと難しいと思いますが、紙があると、それを持って図書館の中を回れますので、大変便利だと思います。たくさん作っているということで、パスファインダーの具体例も紹介いただいて、ありがとうございました。

それでは次の説明をお願いします。

○事務局

～資料5-3について説明～

○会長

皆様いろいろと聞きたいことがおありかと思いますが、後で個別にということで、私からコメントさせていただきます。

まずは視察お疲れさまでした。また、ご報告ありがとうございました。

今回、視察目的を絞って、それぞれの課題に応じた情報収集を効率的に行っていたと納得できまして、大変ありがたいご報告でした。さらに、本協議会の委員の皆様からのご意見なども参考に、視察されてきたのではないかと思います。

これからの課題の中で、検討事項にもありましたが、具体的なディスプレイや排架、先ほどラベルの写真も見せてもらいましたが、管理する上においても、利用者のたどり着きに関しても、目指す資料にたどり着きやすくする工夫なども共有して、これから改善・検討をしていただけるとありがたいなと思っております。

また、調べ学習や健康に関する情報のコーナーも話題に出ておりましたが、八戸市でもそういったことに関連して、市内の専門家の協力を仰ぐということが可能な分野ではないかと思って伺っておりました。八戸市内には総合大学はないですが、理系の大学・機関はありますし、特に総合病院を持っております、お医者様もいらっしゃいます、あと大学の方でも看護学部を充実させていて、医療系の研究者や臨床にあたっているお医者様のお話しなども伺うことができる環境にあるように思います。また、最近では高校で探究授業とかも勧められておまして、調べ学習が先につながっていく形で、期待されていくということもあります。是非、市内のいろいろな方の助力といいますか、力を巻き込んでいくことも、これからはご検討いただけるとよいのではと思って伺っておりました。ありがとうございました。

○会長

最後に、全体的なことで、皆様から何か確認したいことはございますか。

○委員

資料2のNo.9「企画展示の拡充」において、他施設（課）との連携という部分について、少しお話しできることがあるのではと思って発言させていただきます。

八戸ブックセンターの8周年記念の時に、南部会館で八戸市出身作家の木村友祐さんの新刊のトークイベントをさせていただいたのですが、そのテーマが動物愛護でした。この件で、保健所の職員と会話させていただいた中で、動物愛護週間において、何かしら一緒にできる余地はあるものかどうか聞かれたのですが、そのときに、これはまさに、企画という点においては図書館の企画にすることも十分できるのではないかと、思ったんです。その中の選書においては、司書であったり、それこそブックセンター職員もお手伝いできるだろうと。

ということで、この「他施設・他課」という言い方が、文化施設や文部・教育に関係する課に限るというものではなくて、もっと広く、例えば保健であったり、インフラであったり、また、議会事務局もですし、あるいは政策立案支援サービスという形での執行部との連携をも視野に含めるとほぼ全て、「本」を切り口にアプローチできるものであればほぼすべての課において、というのが原理的に成り立つ訳です。その中で、それぞれの都市がその都市に見合った関係先を、また職員の方は異動がありますので、異動してきたところの強みというものもあると思います。もしかしたら、ご一緒したい課というものもあるかと思うので、ここは庁内連携のような形でとれると、望ましいのではないかと思います。そういう意味で、「本のまち八戸」と謳っている限りにおいて、図書館が巻き込み型でいけるのではないかと、このことを意見として添えさせていただきたいと思います。

○会長

何か知りたいとなった時に、やはり図書館の本はありがたい。最近では、もしかすると下水道関係とか問い合わせがあるのではないかと思います。例えば、そういった本を個人で所有するのは難しいと思いますので、ぜひ積極的に推進していただければと思います。

また、資料2の11番「ブックリストの作成」というところで、企画展示等にあわせてのブックリストということで盛り込んでいただいております。今までたくさんの蓄積がある中で、こういうテーマでこういう本を当館では持っていますよというアピールがとても重要だと思います。例えば下水道について特集しているのであれば、上下水道特集をクリックすると、かつての特集の資料が出てくるなど、お互い早くアクセスできるメリットがありますので、皆様のお知恵や今までの蓄積をアクセスしやすいようにしていただければと思います。

○会長

他に何もありませんので、以上で本日予定の案件について終了いたします。皆様のご協力ありがとうございました。それでは、進行を事務局へお返しいたします。

○事務局

それでは事務局から、今後のスケジュールについてお知らせいたします。

○事務局

次回の会議は、今年の8月頃を予定しております。

今期委員の皆様の任期につきましては、今年の7月31日までとなっておりますことから、任期中の会議は、本日が最後となる予定です。おかげさまで、図書館運営方針の改定及び事業計画を策定することができました。2年間、たくさんのご協力を賜り、誠にありがとうございました。

また、任期はまだございますので、今後も何か相談させていただくこともあるかと思えます。引き続きどうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

○事務局

それでは、以上をもちまして、令和6年度第2回八戸市図書館協議会を終了いたします。本日はありがとうございました。